

ドライバーからみた 自転車事故予防



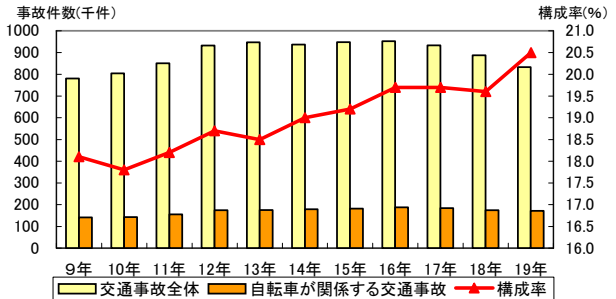
自動車安全運転センター

1

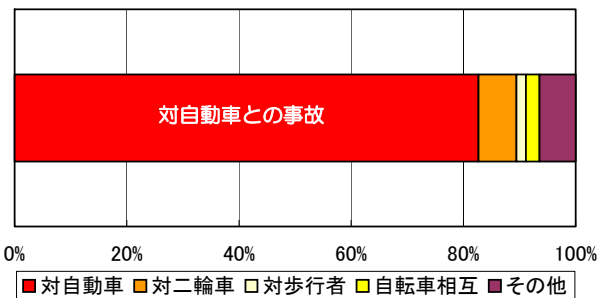
事故の現状

平成 19 年の自転車に関連する交通事故の状況を見ると.....

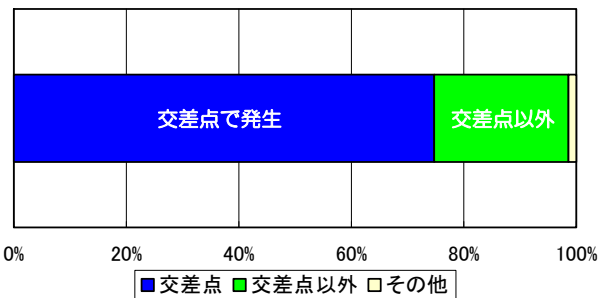
自転車に関連する交通事故の件数は、交通事故全体と同様、3年連続して減少していますが、交通事故全体に占める割合は増加傾向にあります。



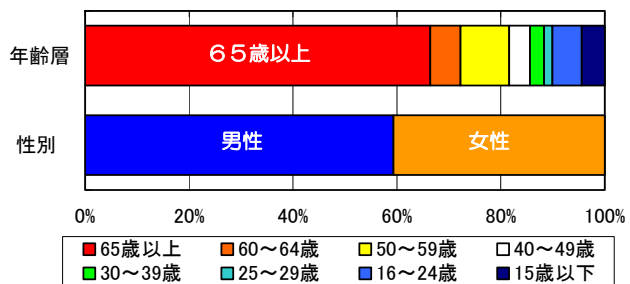
自転車に関連する交通事故の相手についてみると、『対自動車との事故』が全体の8割以上を占めています。



自転車に関連する交通事故の道路形状についてみると、『交差点』が全体の7割以上を占めています。



自転車乗車中の交通事故死者数割合を年齢層別にみると、『65歳以上の高齢者』が全体の約2/3も占めています。



『交差点での事故』を事故類型と合わせてみると、『信号機がない交差点での自動車との出会い頭事故』や『信号機がある交差点での自動車の右左折時の事故』が多くなっています。

(単位: %)

		正面衝突	追突	出会い頭	追越時	右左折時	その他	計
交差点内	信号機あり	0.1	0.1	8.0	0.1	17.0	1.7	27.1
	信号機なし	0.4	0.2	53.6	0.3	8.9	2.8	66.3
交差点付近		0.4	0.2	2.2	0.4	1.3	2.1	6.6
計		0.9	0.5	63.9	0.8	27.2	6.6	100.0

2

調査研究の結果

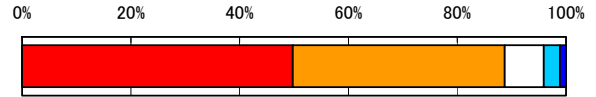
自動車安全運転センターにおいて、クルマ側からみた自転車事故に関する調査研究を行った結果、運転者の状況と事故発生について次のような関係がわかりました。

自動車運転者の意識

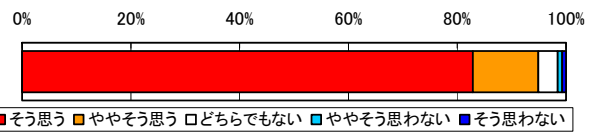
自転車利用者は一時停止場所で止まらなかったり、予測不可能な行動を行う可能性があることから、多くの自動車運転者は注意の必要性や対応方法等について心掛けている。

自動車運転者 714 名に対するアンケート結果の一例をみると

○自転車は一時停止せずに飛び出してくることが多いと思うか？



○自転車を追い越す場合、ふくらんでくる可能性があるため、十分に側方の余裕を持って追い越す必要があるか？



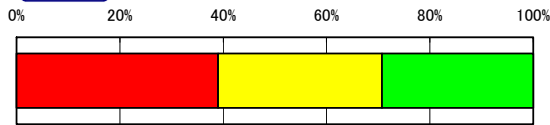
自転車側の行動・知識

自転車利用時の各種道路標識に対する対応方法はまちまちで、歩道通行方法についても正しく理解していない場合がある。

自転車利用者 41 名に対するアンケート結果の一例をみると



右折しようとしたとき、左の標識のみが出ている場合はどのように対処しますか？



- 交差点の安全を確認して乗車した状態で右折
- 交差点の安全を確認して自転車から降りて右折・・・(正解)
- 自転車は乗車しても降りても右折できない

通常の運転行動

自転車事故予防に関する知識に基づいた運転を心掛け、安全な運転行動をとることができる。

自転車の存在を想定し、一時停止位置で停止して安全確認を実施。



交通環境、及び自転車の行動に対する過信や、安全意識が低い状態の際に...



事故の発生

自動車対自転車の事故事例を分析し、その要因をみると、

- ◆ 交差点近くや進行先の状況の安全確認が不十分だった。
- ◆ 交通環境や自転車の行動を過信していた。
- ◆ 減速しなかった、漫然運転だったなど。

3

注意する事故回避ポイント

その1: 交差点では、自転車の存在や動きを十分確認しましょう。

- 例えば右折の場合、赤信号で停止線手前にて停止した際には、信号待ち時間を利用して自転車が存在しないか周囲の安全確認を心掛けましょう。



右折する交差点に近づきました。

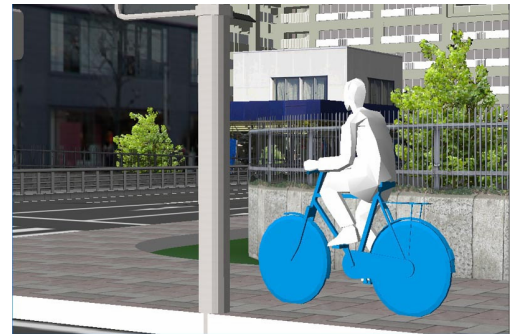


赤信号の場合は停止線手前で停止します。
その際には.....

進行方向の交差道路右側の確認をしておきましょう。



右手歩道上を自分と同方向に進む自転車の有無も確認しましょう。



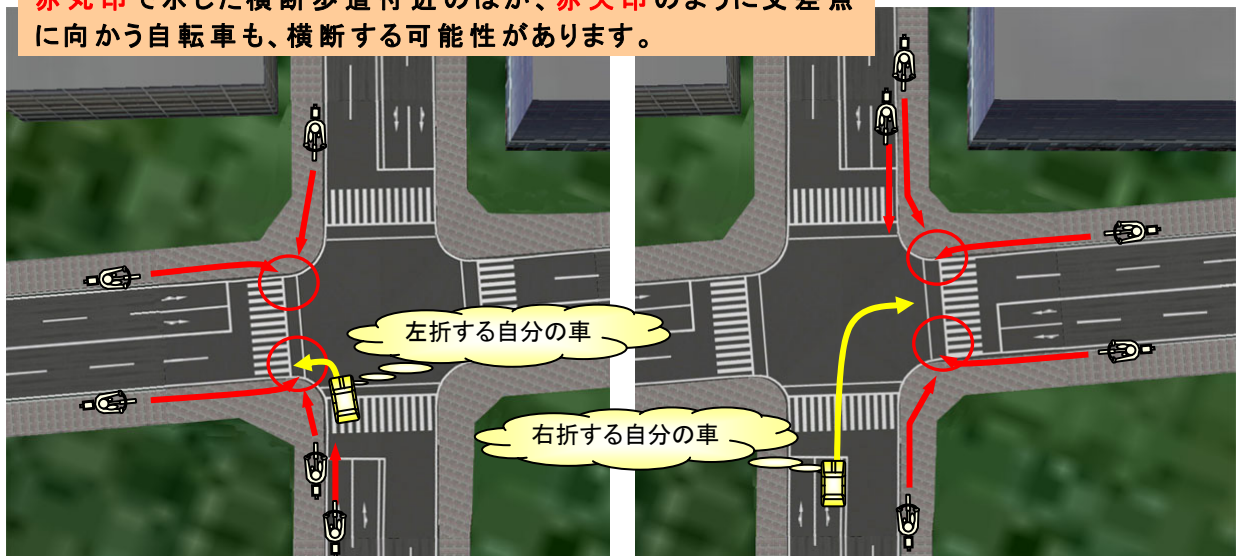
進行方向を見て



更に右側に振り向いて

- 交差点内に進入した場合でも、各方向から自分の進行先を横断する可能性がある自転車の存在を確かめましょう。

赤丸印で示した横断歩道付近のほか、赤矢印のように交差点に向かう自転車も、横断する可能性があります。

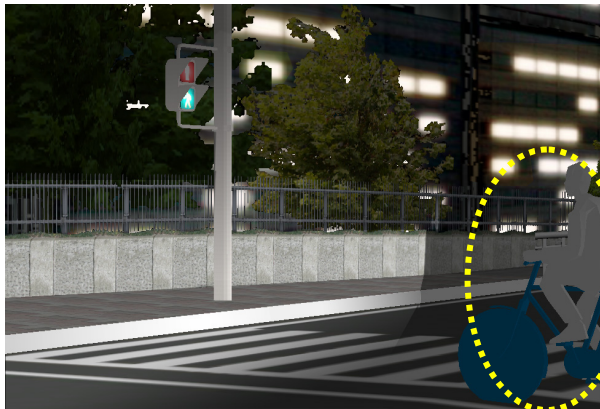


- その他、こんなところにも注意を払いましょう。



巻き込み事故の防止

左折時は、前方に見える交通状況のみだけでなく、自分のクルマの後方より車道側を走行する自転車の有無にも注意しましょう。



夜間の見落としによる事故の防止

夜間は、ヘッドライトが照らす範囲外にも十分注意を向け、飛び出しの可能性のある自転車の有無を確認するようにしましょう。

参考資料

実験コースに設定した障害物がない歩道上において、普段どおりの速度で乗車させたところ、39名の平均で12.0km/h(歩行者は一般に約4.0km/h)の速度で走行していました。



実験コース上において、直進で10km/hの速度から急制動を試させたところ、29名の平均で約2.0mの停止距離を要しました。また、最大では3.0m以上の停止距離を示した被験者も存在しました。



これらの結果を参考にすると、

- 離れた位置にいる自転車でも、短い時間で自分の車に接近する恐れがあり、注意が必要です。
- 自転車も、すぐにその場で停止できないので、自転車の動向を十分確認し、余裕を持った運転行動を心掛けることが必要です。

その2: 心得ている安全運転を行い、漫然運転にならぬように心掛けましょう。

到着が遅れそうになって先急ぎになったり、もの思いにふけた運転

↓

先急ぎ運転や漫然運転をなくそう。

朝夕の通り慣れた道路の走行

↓

自転車も急ぐ状態になっているので、クルマ側が十分注意を払おう。

見通しが悪いわき道を発見

↓

急な自転車の飛び出しを想定し、速度を落とそう。

雨天時の走行

↓

視界が狭くなるので自転車を見落とさぬよう注意しよう。

急がないと遅刻だ!!

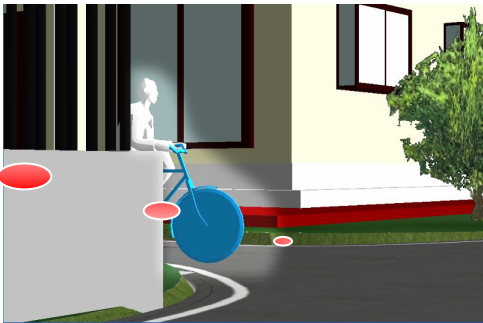


わき道が見えてきたけど、いつも何も起こらない場所だから....



自転車が出てきそうもないけど....でも、速度を落としておこう!

アッ 自転車の飛び出し!
気をつけておいて良かった。

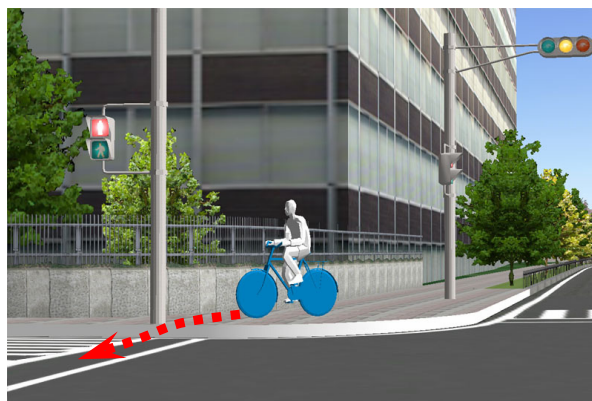


その3: 全般を通して

- ① 自転車を発見した場合、「〇〇するだろう」と勝手に判断せずに、しっかりとその行動を確認しましょう。
- ② 自転車は、「クルマが譲ってくれる」と考えて走行しているものと想定して、注意を払いましょう。
- ③ 信号の変わり目では、自転車も無理な横断を行う可能性があるとして想定して、無理な通行は控えましょう。
- ④ 慣れた道の走行や目的地に急ぐような状況でも、万が一、事故を起こした場合には大きな賠償責任を負うことも考えながら、十分な安全確認を実施しましょう。



発見した前方左側を走行する自転車が、そのまま直進すると勝手に判断せずに、急な横断、右折を行うことも想定し、その行動を確認しましょう。



自転車も急いでいて、赤信号を無視して横断を行う可能性もあるので、黄色信号で無理な左折をすると、衝突する危険性があります。



交通量が少ないところでも、自転車の急な飛び出しを想定して走行しましょう。

